

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：33910

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12604

研究課題名(和文)現代中央アジアのタサウフをめぐる人類学的研究 スーフィー詩への注目から

研究課題名(英文)An Anthropological Study of Tasawwuf in Contemporary Central Asia: A Focus on Sufi Poetry

研究代表者

和崎 聖日 (Wazaki, Seika)

中部大学・人文学部・准教授

研究者番号：10648794

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：実際の調査では、中央アジア出身のスーフィーたちによる(と推測される)詩がウズベキスタンのフェルガナ盆地(フェルガナ州とナマンガ州)とジッザフ州、スルハングリア州において今も詠唱されていることを確認し、詳細な学術的記録を集めることができた。これらの詩が詠唱される場面は、春の到来を祝うローカルな儀礼(「神授の花」と呼ばれる)や病気治療など、であった。それらは学術の観点からみて、ゾロアスター教とイスラームの融合、またはシャマニズムとイスラームの融合と形容できるような現象であった。研究成果は世界的にも稀少性が高く、この分野の研究に大きく貢献するものだが、より長期的な調査・研究が不可欠である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、調査対象の稀少性と方法論の独自性(民族誌映画制作)という点で高いと考える。特にジャフル儀礼や「結び」儀礼は管見の限り、ロシア帝国時代から現在に至るまで映像として残されておらず、本研究は文字通り史上初の試みを達成した可能性がある。映像作品や映像資料は、例えば18～21世紀の中央アジアにおけるイスラーム文化の変容の議論などにおいて、一次資料としてきわめて有用な素材となりうる。その意味で、本研究成果の学術的意義は、その成果が世界の研究者の間で知られていく今後いっそう顕著になると期待している。一方、研究成果の社会的意義は、すでに映画の上映会などをとおした社会還元などにある。

研究成果の概要(英文)：During the actual research, we were able to confirm that poems by (presumed) Sufis from Central Asia are still chanted in the Ferghana Bvalley (Ferghana and Namangan provinces) and Jizzakh and Surkhandarya provinces of Uzbekistan, and to collect detailed academic records. The occasions on which these poems were chanted included local rituals to celebrate the arrival of spring (called "god-given flowers") and the treatment of illnesses. They were phenomena that, from an academic point of view, could be described as a fusion of Zoroastrianism and Islam, or of Shamanism and Islam. The results of the research are rare in the world and make a significant contribution to research in this field, but longer-term investigation and research is essential.

研究分野：中央アジア地域研究

キーワード：スーフィズム シャマニズム イスラーム 中央アジア 中央ユーラシア 儀礼 ゾロアスター教 詩

## 1. 研究開始当初の背景

従来の研究における問題点は以下の2つであった。それは、第1に、上記の政府方針を背景とした調査の困難性もあり、近年のウズベキスタンでのタリーカとスーフイズムの実態がほとんど明らかにされていないことであった。第2に、ソヴィエト政府による苛酷な弾圧にも根絶されず、独立後には新政府から強く警戒されるほどに再生したタリーカとスーフイズムの生命力の根幹には何があるのか、その理由がほとんど明らかにされていないことであった。それゆえ、本研究は従来の研究が欠く上記2点を補うものとして位置付けられた。また、スーフイー詩に注目した理由は以下の2点であった。第1に、中世以降の中央アジア出身のスーフイー導師たちの作によるスーフイー詩（またはその詩集）こそ、人びとがこの世の苦悩を取り除く叡知として、ソ連時代をとおして官憲の目から隠れて口伝し、あるいは命を賭けて書物の形で保管し、下位世代に継承してきたものだからであった。第2に、ズィクル（神との合一という神秘体験を目指す儀礼）の集まりや婚姻・葬送・病気治癒などの儀礼で詠唱されるスーフイー詩の道德性と神秘性、韻律の美しさがソ連時代と独立後の今日においても人びとの心を魅了し続けているからであった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、タサウウフの魅力の根源には中央アジア出身のスーフイーたちの詩の存在があるとみなし、それへの注目から、現代中央アジアにおけるタサウウフの実態を人類学的手法により解明しようとするものであった。より平易に換言すれば、本研究の核心をなす学術的な問いは、中央アジアにおいてタサウウフ（タリーカとスーフイズム）はなぜムスリム民衆から大きな支持を受け続けるのか？というものであった。そして、その探求の手がかりとして、本研究では、現地の社会生活においてムスリム民衆の心を魅了し続けているスーフイー詩に焦点を当てた。

## 3. 研究の方法

- ・中央アジア出身のスーフイーたちによる詩が、国内全土でどれほどの地域的な広がりをもって、どのような場面で詠唱されているのかを解明すること。また、その詩の作者と彼の所属したタリーカなどを写本などの調査から同定する。写本調査に関しては、国立東洋学大学アル=ピールーニー東洋写本センターで研究を行うこと。
- ・映像作品を制作すること。

## 4. 研究成果

実際の調査では、中央アジア出身のスーフイーたちによる（と推測される）詩がウズベキスタンのフェルガナ盆地（フェルガナ州とナマンガン州）とジッザフ州、スルハンダリヤ州において今も詠唱されていることを確認し、詳細な学術的記録を集めることができた。これらの詩が詠唱される場面は、春の到来を祝うローカルな儀礼（「神授の花」と呼ばれる）や病気治療など、であった。詩の言語は、テュルク語（ウズベク語）とペルシア語（タジク語）であった。これらの多くは口頭で伝承されてきており、作者不明とされた。一方、一つの事例において、中世の大スーフイーたるアフマド・ヤサヴィー（現在のカザフスタン南部地域出身）の作になる詩であることを確認できた。そのほか、学術的観点からみて、「神授の花」儀礼ではゾロアスター教とイスラームの融合、また異なる地域で観察した病気治療の儀礼ではシャマニズムとスーフイズムの融合ともいえるような現象

が認められた。ただし、当事者の語りに注目するならば、これらは「融合」とは認識されておらず、あくまでも「イスラームの信仰実践」と認識されている。これを「スーフイズム」（現地語では「タサウウフ」）とみなすか否かの点については、当事者の間には認識の差が認められる。この点に関して当事者と研究者の間に生じ得る認識の差異に最大限の注意を払いながら、研究を継続することが肝要である。

これらの研究成果は、近現代中央アジアのイスラームを対象とする一連の研究群において、現在の時点からアプローチする試みとして世界的にも稀少性が高く、この分野の研究に大きく貢献するものであると自負する。しかし、本研究の目的を達成するには、より長期的な調査・研究が不可欠であることを強く感じた。

そのほか、研究成果の一部として、映像人類学分野の論文に相当する民族誌映画を制作し、国内のドキュメンタリー映画祭と、国外の民族誌映画祭で数多くの入選を果たしたことを強調しておきたい。まず、国際共同研究として2019年に制作した『神授の花：フェルガナの女性とイスラーム』は、たとえば東京ドキュメンタリー映画祭 2021人類学・民俗映像部門コンペティションで入選した。この作品の英語字幕版（*Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan*）はマケドニアやウクライナ、セルビア、メキシコなど6つの国際映画祭で入選した。特に第17回英国王立人類学協会映画祭2021短編部門コンペティションでの入選は大きな業績となった。次に、国際共同研究として2022年に制作した『交霊とイスラーム：パフシの伝えるユーラシアの遺習』も、たとえば東京ドキュメンタリー映画祭 2022人類学・民俗映像部門コンペティションで入選した。この作品の英語字幕版は、現状ではエスノグラフィック・パリ2023で入選している。これらの研究成果は、世界的により広く知られた後、例えば18～21世紀の中央アジアにおけるイスラーム文化の変容を議論するさいの素材、すなわち一次資料としての役割を果たすことになる時にいっそう大きな学術的意義を帯びると確信している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 11件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 和崎聖日	4. 巻 102
2. 論文標題 ムハンマド=サーディク・ムハンマド=ユースフの軌跡：ウズベキスタン・イスラームにおける非党派主義と中道主義の萌芽過程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 32-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Iqbol MELIQQ' ZIEV, Adham ASHIROV, Seika WAZAKI	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Convention of Asia Scholars 12 Film Festival	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iqbol MELIQQ' ZIEV, Adham ASHIROV, Seika WAZAKI	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Ethnographic Film Festival OKO 2021	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iqbol MELIQQ' ZIEV, Adham ASHIROV, Seika WAZAKI	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Third Festival of Engaged Ethnographic Film "Vizantrop"	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iqbol MELIQO' ZIEV, Adham ASHIROV, Seika WAZAKI	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences(IUAES) Yucatan: The Indigenous and Ethnographic Film Exhibition	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 イクパール・メリコズィエフ、アドハム・アシーロフ、木村暁、和崎聖日	4. 巻 -
2. 論文標題 神授の花：フェルガナの女性とイスラーム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京ドキュメンタリー映画祭2021人類学・民俗映像部門コンペティション	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Adham Ashirov, Iqbol MELIQO' ZIEV, Seika Wazaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 17th Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland Film Festival 2021	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Adham Ashirov, Iqbol MELIQO' ZIEV, Seika Wazaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 9th International Festival of Ethnological Film "KRATOVO 2020"	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 ハサンハン・ヤフヤー・アブドゥルマジード(木村暁、和崎聖日編訳・注釈)	4. 巻 15
2. 論文標題 ウズベク語におけるクルアーンの解釈と翻訳について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中央アジア学会報	6. 最初と最後の頁 23-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和崎聖日、アドハム・アシロフ	4. 巻 8
2. 論文標題 旧ソ連中央アジアのスーフイズムと病気治療：ジャフル儀礼の手順について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Adhamjon Ashirov, Seika Wazaki	4. 巻 -
2. 論文標題 O'zbek xalqning an'anaviy turmush-tarzida milliy va diniy an'analarni uyg'unlashuvi	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zamonaviy jamjiyatda innovatsion taraqqiyot va ijtimoiy-gumanitar fanlar integratsiyasi	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Adhamjon Ashirov, Seika Wazaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Markaziy Osiyoda tasavvuf ta'limotlari tarixini o'rganilish haqida ayrim mulohazalar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 "I. f. r. d. m." mavzusidagi xalqaro ilmiy-nazariy anjuman materiallari	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 和崎聖日	4. 巻 14
2. 論文標題 旧ソ連・中央アジアのスーフイズムと病気治療 アフマド・ヤサヴィーの現代的意義に寄せて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本中央アジア学会報	6. 最初と最後の頁 45-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村暁・和崎聖日	4. 巻 15
2. 論文標題 ウズベク語におけるクルアーンの解釈と翻訳について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中央アジア学会報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和崎聖日、木村暁、アドハム・アシーロフ	4. 巻 -
2. 論文標題 交霊とイスラーム：バフシの伝えるユーラシアの遺習	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京ドキュメンタリー映画祭2022人類学・民俗映像部門コンペティション	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 和崎聖日、木村暁、アドハム・アシーロフ	4. 巻 -
2. 論文標題 交霊とイスラーム：バフシの伝えるユーラシアの遺習	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西湘映画祭6thドキュメンタリー部門	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Adham Ashirov, Seika Wazaki and Satoru Kimura	4. 巻 -
2. 論文標題 Sance and Islam: The Eurasian Legacy as Transmitted by the Bakhshi	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ethnografilm Paris 2023	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Adham Ashirov and Seika Wazaki	4. 巻 58
2. 論文標題 Sufism and Interethnic Coexistence in the Southern Region of Uzbekistan on the Post-Soviet Era: Focusing upon the Ritual of Jahr	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 現代中央アジアのスーフィズムの様相 ペルシア系住民による病気治療の儀礼
3. 学会等名 日本アルタイ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和崎聖日、木村暁
2. 発表標題 民族誌映画『交霊とイスラーム：パフンの伝えるユーラシアの遺習』の上映と解説
3. 学会等名 日本アルタイ学会
4. 発表年 2023年



## 〔図書〕 計10件

1. 著者名 ティエリー・ザルコンヌ著、東長靖、和崎聖日共訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター	5. 総ページ数 165
3. 書名 『イスラームの多文化共生の知恵 周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して』（東長靖、イディリス・ダニシマズ、藤井千晶編. 「キリスト教徒・ベクタシー教団員関係の理解 宗教多元主義と諸宗教の一致」 pp.107-121）	
1. 著者名 和崎聖日、アドハム・アシーロフ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター	5. 総ページ数 165
3. 書名 『イスラームの多文化共生の知恵 周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して』（リス・ダニシマズ、藤井千晶編. 「旧ソ連・ウズベキスタン南部のスーフィズムと民族間の共生：ジャフル儀礼への注目から」 pp.77-105）	
1. 著者名 サイード・フォージア著、和崎聖日編訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 456
3. 書名 『インド・剥き出しの世界』（田中雅一、石井美保、山本達也編. 第4章「殺人という特権 パキスタンの名誉殺人」 pp.111-130）	
1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 448
3. 書名 『ジェンダー暴力の文化人類学』（田中雅一、嶺崎寛子編. 第7章「揺れ動くジェンダー規範 旧ソ連中央アジアにおける世俗主義とイスラーム化」 pp.179-197）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 370
3. 書名 『宗教と風紀 聖なる規範 から読み解く現代』（高尾賢一郎、後藤絵美、小柳敦史編. 第9章「旧ソ連・ウズベキスタンにおける『婚外の性』とイスラーム 男が語るモラル」pp.197-219）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2020年
2. 出版社 英明企画編集	5. 総ページ数 192
3. 書名 『人のつながりと世界の行方 コロナ後の縁を考える』（シリーズ 比較文化学への誘い）（山田孝子編. 担当章「結婚と『つながり』のかたち 中央アジア南部のムスリム社会」pp.95-112）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 ウズベキスタンを知るための60章（浅村卓生、ニゴラ・アフメドヴァ、岡奈津子、帯谷知可、加藤九祚、河原弥生、菊田悠、久保一之、雲和広、甲山治、小松久男、近藤正憲、塩谷哲史、ティムール・ダダバエフ、寺山恭輔、樋渡雅人、藤本透子、堀江典生、堀川徹、他9名、帯谷知可編）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 帝国ロシアとムスリムの法（磯貝真澄・磯貝健一編 第8章「妻の権利をめぐる人間模様：現代ウズベキスタンの「法」制度と運用」）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 714
3. 書名 イスラーム文化事典（イスラーム文化事典編集委員会編 担当項目「宣教・宗教教育（中央アジア）」、 「タリーカ・聖者崇敬（ウズベキスタン）」、「伝統医療（ウズベキスタン）」）	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 814
3. 書名 中央ユーラシア文化事典（小松久男編 担当項目：「マハッラとモスク」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ウズベキスタン	科学アカデミー歴史研究所		